

稲 WCS 給与による黒毛和種子牛の育成技術

わが国の畜産は海外からの輸入飼料に大きく依存しており、近年における輸入トウモロコシ価格の大幅な高騰や高止まりは畜産経営に大きな打撃を与えています。そのため、飼料自給率の向上や安心・安全な牛肉の生産を推進する自給飼料として稲発酵粗飼料（稲 WCS）の利用拡大が期待されています。そこで、黒毛和種子牛の育成段階において稲 WCS を主体とする給与技術を検討しました。

☆ 技術の概要

1. 稲 WCS の飼料成分は乾物 31.1%、TDN51.2%、蛋白質 7.6%、粗脂肪 3.2%、NFE51.6%、粗繊維 23.8%、粗灰分 14.0%で、チモシー、オーツヘイとほぼ同等の飼料価値でした。
2. 試験期間は生後 4～8 か月齢とし、試験 1 では、稲 WCS を給与する稲 WCS 区とチモシーを給与する乾草区を、試験 2 では、4～6 か月齢に稲 WCS を給与し、6～8 か月齢に稲 WCS とチモシーおよびオーツヘイを 9：2：1 の割合（原物）で混合給与する稲 WCS 乾草区とチモシーとオーツヘイを 2：1 の割合（原物）で混合給与する混合乾草区を設定しました。
3. 乾物、TDN および蛋白質摂取量と栄養充足率は稲 WCS 区、稲 WCS 乾草区が乾草区や混合乾草区より有意に大きく、日増体重(kg/日)は稲 WCS 区が 0.99、乾草区が 0.94、稲 WCS 乾草区が 0.96、混合乾草区が 0.93 で、試験区による差は有りませんでした。また、試験期間中における血液成分の HT、TP、GLU、T-Cho、ALB、BUN、GOT、GPT、β-カロテンには異常が認められませんでした。
4. 1 頭あたりの経済性は、試験 1 では、稲 WCS 区は乾草区よりも粗飼料費が 3,560 円減、増体量が 8,531 円増で合計 12,091 円のプラスとなり、試験 2 では、稲 WCS 乾草区は混合乾草区よりも粗飼料費が 670 円減、増体量が 6,282 円増で合計 6,952 円のプラスとなりました。



写真1 稲 WCS 給与状況

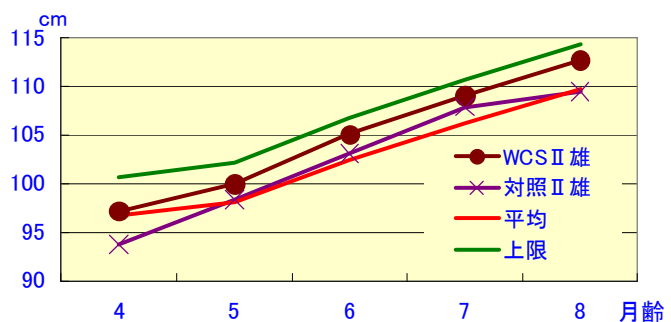


図1 去勢子牛の体高成績(試験2)

☆ 活用面での留意点

稲 WCS は高水分であるため開封後の変敗が早いため、1 ロールを 3～4 日で使い切る頭数規模での利用や、有効な保存方法を検討する必要があります。詳細は、岡山県農林水産総合センター畜産研究所飼養技術研究室生産性向上研究グループ(TEL: 0867-27-3349)にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)